



## 「学校で大切にしたいこと」

副校長 谷口英昭

先日、中国地区国立大学附属学校園PTA連合会に参加しました。その時の講師である関西大学教授 田尻悟郎氏の講演の中に、次のようなお話がありました。

「人は、満たされた環境の中では努力しようとしな。世界に通用するグローバルな人材を育成するには、思い通りにいかない中で、どうしたらよりよく生きられるか、改善できるかを考えていく経験を積み、トラブルがあっても解決する術を身につけていかなければならない。そして、相手の立場も理解し折り合いをつけるバランス感覚が必要である。」「今の子どもたちには、次の三つのことが欠けている。一つ目は、我慢強さ。二つ目は、礼儀作法。三つ目は、叱られる経験である。これが欠けていては、社会に通用するにはなかなか難しい。」

確かに、世の中、便利になりました。子どもたちのおもちゃにしても、なるべく手間を省いてあります。部品もすでに作成されていて、あとは説明書どおりに組み立てるだけです。しかし、子どもの創意工夫が入り込む余地はほとんどありません。

我々大人は、子どもが失敗しないよう、必要以上に先回りして障害物を取り除いてはいないでしょうか。子どもが求めれば、ほとんどのものは与えられ、困った時には人に解決してもらえる。トラブルをとおして、何が問題かを考え、解決の糸口を見い出したり自己を見つめ直して反省するといった力を育む場や機会が少なくなっているように思います。だからこそ、学校教育の中でやるべきことがあります。

これは、2年生の生活科の学習参観した時のことです。

子どもたちは、必要な材料を集め、おもちゃづくりに取り組んでいました。しかし、思ったようにはいきません。紙と木の棒がうまくくっつかなくて「どうしたらいいかなあ」と悩む子、車がまっすぐ進まない原因がわからなくて「どうしてかなあ」とつぶやいている子。やがて、同じ遊び道具を作っている友達に聞いたり、うまく動くおもちゃを見せてもらったりしながら、自分なりに改善策を練り始めました。そして、紙に切り込みを入れたり、車軸の傾きを調整したりと、工夫し始めました。困っている友達に対して「こうしたらいいんじゃないの。」と声をかけている子もいます。「だめだあ」という悲鳴に近いつぶやきも聞こえます。それでも、しばらくして「できた。」「さっきよりよくなった。」といった歓声が上がりはじめます。その時の子どもたちの表情は、創意工夫して完成した喜びと苦難に打ち勝った自信に満ち溢れていました。

こうした学びを学校の中で大切にしていきたいと改めて思います。

## クリスマスツリー現る

二階職員室前に、大きなクリスマスツリーが現れました。

これは、以前、附属小学校で英語活動を指導してくださっていたデボラ増井先生が、毎年設置してくださっているものです。

色とりどりに輝く電飾に彩られたクリスマスツリーに、登校してきた子どもたちも、最初はびっくりしていましたが、やがて飾り付けの小物に触ったりして楽しんでいました。多くの方々に学校は支えられていることを実感しました。



【クリスマスツリー】

## 12月の主な行事予定

- 4日(金) 5年鳥取大学留学生との交流
- 5日(土) 附属特別支援学校公開研究会
- 7日(月) 附属小学校への保護者立ち入り禁止  
(~12/12)
- 10日(木) 弁当の日・入試前日準備(午後下校)  
集金引き落とし日
- 11日(金) 臨時休業日(附属小学校入試)
- 12日(土) 附属小学校入試合格発表
- 15日(火) 1~5年後期個人懇談(~12/17)  
※1~5年は5校時終了後下校
- 18日(金) 5年鳥取大学留学生との交流
- 22日(火) 冬休み前集会 5校時終了後下校
- 23日(水) 天皇誕生日
- 24日(木) 冬季休業日(~1/6)

## 人権教育参観日実施

11月20日に人権教育参観日を実施しました。

各学級の公開学習では、自分が大切にされていることに気づいたり、相手の気持ちを考えた言動をすることが、社会生活をより良いものにするのを、子どもたちの身近な生活場面でありがちな事例を通して学びました。

次に、講演会では、鳥取県警察本部の松浦大氏と鳥取県ケータイ・インターネット普及員の今度珠美氏を講師に「ネットで今なにが起きているのか・子どもたちを守るポイントの対応」と題して講演していただきました。

【3年 学級活動】

私たちの身近にあるスマートフォン等の情報通信機器の進歩はめざましいものがあります。しかし、使い方を誤ると取り返しがつかない問題を引き起こすことも事実です。勝手に個人情報や不特定多数に広められたり、悪意を持った大人に利用され犯罪に巻き込まれたり、そこまではいかないまでも、ゲーム・ツイッター等に縛られ日常生活に支障をきたすようになっていたりといった事例がたくさんあることはご存知かと思います。

附属小学校の子どもたちへのアンケートでも、知らない人と連絡を取り合ったり、その人と会ったことがあると答えた子もいます。正しい知識やモラルがない限り、子どもたちは興味本位でなんの危機感ももたずに関わっていきます。だからこそ、機器を与える大人がその実情を知り、子どもたちに必要なことを教えると同時に、子どもの発達段階や実態に応じて制限をかけたりするなどの管理をすることは必要です。

講演会の資料を後日お配りしますので、ぜひお読みいただき、それぞれのご家庭で対応していただくとともに必要に応じて学校にもご相談いただくようお願いいたします。



## 全校造形遊び実施

11月5日（木）に全校一斉の造形遊びを実施しました。

それぞれの学年でテーマを設定して、個々またはグループで分担しながら学年で一つの作品群を完成させました。



【2年 「道は続くよ」】

2年生は、たくさんの段ボールをつないでトンネルを作っていました。途中、枝分かれた道を作ったり、休憩して顔を出せる穴を開けたりと、いろいろ工夫していました。

また、6年生は、コマ送りにした体の動きを模造紙に写し取り、それを並べて一連の動きを表現していました。

どの学年も、みんなの力を合わせて一つの作品を作り上げていました。こうした子どもたちの体験を大事にしていきたいと思います。



【6年「動きをつないで」】

## 「使わない」を考える

附属小学校 事務職員 池内さよ子

最近、車に頼りがちだった通勤を見直し、極力、列車を使うようにしています。歩くことも増え、待ち時間には本を読み、少し時間はかかりますが、楽しく通勤しています。

その通勤の途中で、スマートフォンを使う高校生をよく見かけます。ライン、ゲーム、音楽、使い方はいろいろあるのですが、同じ列車を利用している高校生のほとんどがスマートフォンを片手に乗っているといっても言い過ぎではないかも……。その多さに「スマートフォンを使わないなんて無理」という昨今の高校生事情を察することができます。

先日の人権教育講演会では、子どもたちがネットのトラブルに巻き込まれないために、保護者も勉強し、対策をとることが必要であると話されました。私もスマートフォンを持っていますが、もっぱら連絡用であり、「使う必要がないので使わない」、つまるどころ「使い方がよくわからない」状態ともいえます。

私のように「使い方がよくわからない」とはいわないまでも、どんなトラブルにまきこまれるのか知らないままに使っている人は多いかもしれません。だからこそ「必要以上に『使わない』」、「使い方は知っているが『使わない』」、いろいろな「使わない」を考え、子どもも大人もそれぞれの「使わない」を意識することが大切ではないでしょうか。